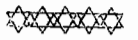
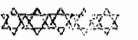


労働者の敵「革マル」鉄道労働連を解体。一掃しよう！



前号に引き続き、鉄道労働第三回全国大会において打ち出された反動的方針を明らかにし、松崎、そして何よりも当局、政府・自民党の狙っていることを見極め、勤労千葉根絶し攻撃を打ち砕くために奮闘しよう！



「連合」を全面賛美！

勤労革マル・鉄道労働の方針書によれば、昨年十一月に発足した「全民労連（連合）」を「自由で民主的な労働運動」「政策課題の実現に：大きな役割を果たしてきた」と全面的に賛美し、さらに、総評の一年前倒しの「解散」方針を「これ自体は歓迎すべきこと」だとしている。

今日「進行」している労働「統一」は、「統一」という名の労働運動の解体・一掃の攻撃であり、戦後労働運動の象徴であった総評労働運動の右からの分裂、労働組合の排除の攻撃である。そしてなによりも、JRにおける「一企業・一組合」攻撃こそが、労働「統一」の典型である。

勤労革マル・鉄道労働はまたしても、鉄産労（国労から右へ分裂した組合）へ「統一」を叫んでいる。革マル・鉄道労働は、「鉄産労との『統一』は、組織不可侵、対等の立場」と言っているが、実際は「総評・社会党支持の鉄産労は組合員のためにならない」「企業の発展の障害物」と、最大限の悪罵をなげつけているのであり、結局は鉄産労を吸収併合し、国労・勤労千葉の解体を策しているのである。

「一企業一組合」の危機にあえぐ

しかし、その「一企業・一組合」が、いまだに「完成」していない現実には、勤労革マル・鉄道労働はあせりにあせっているのである。大会宣言のなかで、「妨害・敵対に対し、毅然と対処できないものは問題外」「三・三松下襲撃事件」について「暴力を憎むよりおそれられた者（革マル）の方が犯罪者であるかのような報道があり、これを利用して組織混乱を策す者が存在している」と鉄労を批難し、わめいているのだ。

国労地労委闘争の破壊を策動！

また、国労（勤労千葉に対しても同様）に対し「労働組合としての責務を完全に放棄した」「一刻も早くこの国労の鉄鎖から良識ある社員を解放することが大きな課題だ」と口ぎたなくののしているのである。

そして、この間、「新宿車掌区内勤車掌降参事件」「国労秋田保線区分会組合掲示板強制撤去事件」でJRの不当労働行為が地労委に認定され、救済命令が出されていること、あせり、「国会、地労委対策を強化し、『差別・不当労働行為・不安全问题等』のギマン性を明らかにする」としているのである。

国鉄労働者の壮大な反撃で

鉄道労働を解体・一掃しよう！

結局、勤労革マル・鉄道労働の体制は、当局、自民党の全面的なバックアップのもとでなんとかなり立っている脆弱な組織であり、一歩崩れれば、総瓦解するような体制なのである。当局、自民党との関係、鉄労を中心とした内部問題、そして、最大の問題として勤労千葉と四方国労組合員が不屈に闘い続けていることに、つねにおびえているのである。

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

勤労千葉解体を叫ぶ鉄道労働連許すな
国労の

7/17 勤労西日本大会
三里塚現地集会

7/19 清算事業団
地労委闘争

本千葉駅
9時30分集合